

## 断続的降雨、葉いもちの発生急増のおそれ！

育苗箱施薬（いもち病）を行っていない圃場では葉いもちが発生しています。また、

**7月10日すぎには箱施薬の効果も切れ、** 葉いもちにかかりやすくなります。

天気予報でも、**早生出穂期まで、発病に好適な天候が続く予報**であるため、全県的に穂いもち病多発の恐れがあります。

天気予報を確認し、雨の合間をみて**必ず防除**を行ってください。

### 1 防除時期

#### ●現在、発生が多くみられる圃場

拡大を防ぐため

**雨の合間を見て直ちに防除を行う**

#### ●現在、発生が少ない、もしくは発生が未確認の圃場

穂いもち防止のため

**穂ばらみ期～出穂直前に必ず防除を行う**

※発生が少なくても5日ほど様子を見て拡大が著しい場合は直ちに防除を行う。



葉いもち（上）と穂いもち（下）

### 2 主な防除薬剤

※農薬の表示（収穫前日数など）を確認し、正しく使いましょう

剤型	薬剤名	希釈倍率	使用量	成分数	備考
粉剤	ビーム粉剤 DL	—	3～4kg/10a	1成分	・散布後4時間程度降雨がなければ充分効果がある。
	ラブサイド粉剤 DL			1成分	
	ブラシン粉剤 DL			2成分	
液剤 ・ ゾル	ブラシフロアブル	1,000倍	60～150ℓ	2成分	
	トライフロアブル	1,000倍	60～150ℓ	1成分	
	ビームエイトゾル	250倍	25ℓ	1成分	
粒剤	オリブライト1キロ粒剤	—	1kg/10a	1成分	・発生から10日後までに散布する。 ・湛水深3～5cmで散布し、自然落水させる。 ・施用後一週間はかけ流しをしない。
	オリブライト250G		250g/10a	1成分	

☆詳しい農薬情報は農薬登録システム([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))をご覧ください。